

愛媛大学医学部附属病院
2027 年度麻酔科専門研修プログラム

愛媛大学麻酔科専門研修プログラム

1. 専門医制度の理念と専門医の使命

① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は、周術期の患者の生体管理を中心としながら、救急医療や集中治療における生体管理、種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において、患者の命を守り、安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで、国民の健康・福祉の増進に貢献する。

② 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは、人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え、生体の侵襲行為である手術が可能のように管理する生体管理医学である。麻酔科専門医は、国民が安心して手術を受けられるように、手術中の麻酔管理のみならず、術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う、患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである。同時に、関連分野である集中治療や緩和医療、ペインクリニック、救急医療の分野でも、生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし、国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う。

2. 専門研修プログラムの概要と特徴

本研修プログラムでは、専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修の到達目標を達成できる専攻医教育を提供し、十分な知識・技術・態度を備えた麻酔科専門医を育成する。

麻酔科専門研修プログラム全般に共通する研修内容の特徴などは別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に記されている。

本研修プログラムの専門研修基幹施設である愛媛大学医学部附属病院では、**成人心臓血管外科**、**小児心臓血管外科**、**小児外科**、**呼吸器外科**、**産婦人科**、**脳神経外科**などの症例経験数を求められる手術の症例数は豊富にある。また、生体肝移植術、VAD植え込み手術などの多彩な症例も経験でき、2024年度からは心臓移植認定施設にもなっている。専門研修連携施設においては、一般的な外科手術の麻酔に加えて、救急患者対応や集中治療の症例数が豊富にある。サブスペシャリティ領域における育成にも力を入れており、ペインクリニック、集中治療などの研修体制も充実している。小児麻酔や心臓血管麻酔といったより専門的な領域に関しては、希望に応じて後述のような首都圏を含む他県の連携施設で研修することも可能である。

3. 専門研修プログラムの運営方針

- 4年間の研修期間のうち、少なくとも1年半は専門研修基幹施設にて研修を行う。ただし、地域医療に従事する者（地域枠・地域奨学金制度等の理由により地域医療の従事期間が定められている者）は、4年間の研修期間のうち少なくとも1年間は専門研修基幹施設にて研修を行う。
- 地域医療に従事する者で、最短で地域での従事期間を終了したい者は、最初の1年間のみ大学で研修とし、以降は地域医療に従事する事も可能とする。
- 研修内容・進行状況に配慮して、プログラムに所属する全ての専攻医が経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるように、ローテーションを構築する。
- すべての領域を満遍なく回るローテーションを基本とするが、小児診療を中心に学びたい者へのローテーション、ペインクリニックを学びたい者へのローテーション（後述のローテーション例I）、集中治療を中心に学びたい者へのローテーション（後述のローテーション例J）など、専攻医のキャリアプランに合わせたローテーションも考慮する。
- なお、小児、心臓、ペインクリニックなどの専門性の高い領域は、愛媛県外の連携施設での研修も可能である。
- 地域医療の維持のため、最低でも3ヶ月以上は地域医療支援病院である愛媛県立新居浜病院、愛媛県立今治病院、市立宇和島病院、十全総合病院、市立大洲病院、市立八幡浜総合病院、住友別子病院のいずれかで研修を行う。
- 各専攻医の希望も考慮しながら4年間のローテーション計画をたて、専攻医間で不公平がないように配慮する。

研修実施計画例

	1 年目		2 年目		3 年目		4 年目	
	前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半
A	本院		県立中央 松山赤十字		四国がんセンター 松山市民 済生会松山		市立宇和島 県立今治 県立新居浜	本院 (ペイン) (集中治療)
B	本院		県立中央			市立宇和島		本院 (ペイン) (集中治療)
C	本院		順天堂大学・日本医科大学 琉球大学・弘前大学 榊原病院		本院			住友別子 市立大洲 市立八幡浜

D	本院	県立中央 順天堂大学・日本医科大学 琉球大学・弘前大学		本院		市立宇和島 県立今治 県立新居浜
E	本院		県立中央 松山赤十字			十全総合 住友別子 県立新居浜
F	本院		松山市民 四国がんセンター 済生会松山		県立今治 県立新居浜 市立宇和島	
G	本院		県立中央 松山赤十字 国立循環器病センター			十全総合 住友別子 市立宇和島
H (小児麻酔)	本院	県立中央 松山赤十字	兵庫県立こども病院 大阪母子医療センター		市立宇和島 県立今治 県立新居浜	本院
I (ペイン)	本院	県立中央 (ペイン) 順天堂大学 (ペイン)		十全総合 市立八幡浜 市立大洲	本院 (ペイン)	
J (集中治療)	本院	県立中央 (集中治療)	県立今治 県立新居浜		本院 (集中治療)	
K (地域枠Ⅰ)	本院	県立中央 松山赤十字 順天堂大学・日本医科大学			県立今治 県立新居浜 市立宇和島	
L (地域枠Ⅱ)	本院	県立今治 県立新居浜 市立宇和島				

週間予定表

本院麻酔ローテーションの例

	月	火	水	木	金	土	日
午前	手術室	手術室	明け休み	術前外来	手術室	休み	休み
午後	手術室	手術室	明け休み	手術室	手術室	休み	休み
当直		当直					

4. 研修施設の指導体制

① 専門研修基幹施設

愛媛大学医学部附属病院（以下、愛媛大学病院）

研修プログラム統括責任者：西原 佑

専門研修指導医：西原 佑（麻酔，集中治療）

高崎康史（麻酔，集中治療）

藤井知美（緩和ケア，ペインクリニック）

藤井園子（小児心臓外科麻酔）

北村咲子（麻酔）

藤岡志帆（麻酔，緩和ケア）

渡邊愛沙（麻酔，ペインクリニック）

阿部尚紀（麻酔，集中治療）

南立秀幸（麻酔，集中治療）

関谷慶介（麻酔，集中治療）

西川裕喜（麻酔，ペインクリニック）

小西 周（成人心臓外科麻酔）

廣松恵美子（麻酔，区域麻酔）

大塚悠子（麻酔）

谷島明秋（成人心臓外科麻酔）

常盤大樹（麻酔）

中田行洋（麻酔，集中治療）

山本和一（麻酔，集中治療）

堀田三希子（麻酔，ペインクリニック）

橋本由莉恵（麻酔）

認定病院番号：132 研修委員会認定病院取得：2011年

特徴：成人心臓血管外科，小児心臓血管外科，小児外科，呼吸器外科，産婦人科，脳神経外科などの症例経験数を求められる手術の症例数は豊富にある．また，生体・脳死肝移植術，VAD植え込み手術などの多彩な症例を経験できる．2024年度からは心臓移植も始まっており，様々な高難度手術を経験できる．サブスペシャリティ領域における育成も進めており，ペインクリニック，集中治療の研修体制も充実している．

② 専門研修連携施設

愛媛県立中央病院（以下，県立中央病院）

研修実施責任者：中西和雄

専門研修指導医：中西和雄（麻酔）

藤谷太郎（麻酔，ペインクリニック）

奥田康之（麻酔）

矢野雅起（麻酔，集中治療）

程野茂樹（麻酔）

品川育代（麻酔）

菊池幸太郎（麻酔，成人心臓外科麻酔）

佐々木知恵（麻酔）

高柳知貴（麻酔，集中治療）

認定病院番号：280

特徴：愛媛県内の救急医療の中心的な役割を果たす施設。

心臓血管外科，TAVI，経皮的僧帽弁クリップ術，各種のロボット支援内視鏡下手術などの多彩な症例が経験できる。また，外傷，急性腹症，産科救急など，急性期病院の麻酔科医に求められる症例の麻酔を幅広く研修できる。ペインクリニック・集中治療の研修も可能である。高度救命救急センター，総合周産期母子医療センター併設。基幹災害拠点病院，地域がん診療連携拠点病院指定。

松山赤十字病院（以下，日赤病院）

研修実施責任者：武智健一

専門研修指導医：武智健一（麻酔，ペインクリニック，集中治療）

堀川順子（麻酔，集中治療）

彭 偉（麻酔，ペインクリニック）

三喜和明（麻酔，心臓血管麻酔）

阿部智子（麻酔）

三喜陽子（麻酔）

中田美緒（麻酔）

認定病院番号：106 研修委員会認定病院取得：2011年

特徴：集中治療，ペインクリニックのローテーション可能。

松山市民病院（以下，市民病院）

研修実施責任者：宮崎博文

専門研修指導医：宮崎博文（麻酔，集中治療）

寺尾欣也（麻酔，集中治療）

谷島由佳理（麻酔）

鶴谷 愛（麻醉）

認定病院番号：482

特徴：一般的な外科症例が多い。

四国がんセンター（以下、がんセンター）

研修実施責任者：原田佳実

専門研修指導医：原田佳実（麻醉）

武智晶子（麻醉）

正岡光智子（麻醉）

首藤 誠（麻醉，集中治療）

首藤聡子（麻醉）

認定病院番号：1062 研修委員会認定病院取得：2010年

特徴：呼吸器外科の手術が多い。

市立宇和島病院

研修実施責任者：仙波和記

専門研修指導医：仙波和記（麻醉，集中治療）

出崎陽子（麻醉，集中治療）

酒井真愛（麻醉）

認定病院番号：387 研修委員会認定病院取得：2011年

特徴：集中治療のローテーション可能。

順天堂大学医学部附属順天堂医院（以下、順天堂医院）

研修実施責任者：川越いづみ

専門研修指導医：川越いづみ（呼吸器外科麻醉・区域麻醉）

石川晴士（胸部外科麻醉・術前外来）

赤澤年正（麻醉全般・心臓血管外科麻醉）

長島道生（集中治療）

竹内和世（麻醉全般・小児麻醉）

工藤 治（麻醉全般）

岩田志保子（麻醉全般・心臓血管外科麻醉）

掛水真帆（麻醉全般・心臓血管外科麻醉）

尾堂公彦（麻醉全般・心臓血管外科麻醉）

河邊千佳（麻醉全般・小児麻醉）
安藤 望（麻醉全般・小児麻醉）
阿部まり子（麻醉全般・小児麻醉）
福田征孝（麻醉全般）
豊田有加里（麻醉全般）
櫻谷初奈（麻醉全般）
林 愛（麻醉全般）
藤野隆史（麻醉全般）
岡田尚子（麻醉全般・産科麻醉）
門倉ゆみ子（麻醉全般・産科麻醉）
千葉聡子（ペインクリニック）
山田恵子（ペインクリニック）
原 厚子（ペインクリニック）
濱岡早枝子（ペインクリニック）
武田泰子（ペインクリニック）
太田 浄（ペインクリニック）
林田眞和（心臓血管外科麻醉）
西村欣也（小児麻醉）
井関雅子（ペインクリニック，緩和ケア）
三高千恵子（集中治療）
近江禎子（麻醉全般・産科麻醉）

専門医：稲田美香子（麻醉全般）

山口 愛（麻醉全般）
草野有佳里（麻醉全般）
池田麻里絵（麻醉全般）
伊東由圭（麻醉全般）
宇田川梨子（麻醉全般）
桃井千恵（麻醉全般）
岩佐 美（麻醉全般）
米本周平（麻醉全般）
森 悠子（麻醉全般）
多賀慶子（麻醉全般）
室谷修平（麻醉全般）
廣瀬友基（麻醉全般）
箕浦真奈美（麻醉全般・産科麻醉）

認定病院番号：12

特徴：各診療科の手術数が多く最先端医療の導入にも積極的であるため、豊富な麻酔症例を経験でき、各サブスペシャリティの指導陣も充実している。ペインクリニック、緩和ケア、集中治療、産科麻酔の長期・短期のローテーションも可能である。多職種で構成される包括的な術前外来も整備され、麻酔安全面へ大きく寄与している。

琉球大学病院（以下、琉球大学病院）

研修実施責任者：垣花 学

専門研修指導医：垣花 学（麻酔）

中村清哉（麻酔、ペインクリニック、緩和）

渕上竜也（麻酔、集中治療）

大城匡勝（麻酔）

照屋孝二（麻酔、集中治療）

野口信弘（麻酔）

神里興太（麻酔、集中治療）

宜野座到（麻酔）

仲嶺洋介（麻酔）

渡邊洋平（麻酔）

桃原志穂（麻酔）

幾世橋美由紀（麻酔）

渡慶次さやか（麻酔、ペインクリニック）

小田浩央（麻酔、集中治療）

和泉俊輔（麻酔）

林 美鈴（麻酔、集中治療）

松尾敬介（麻酔）

新里勇人（麻酔、ペインクリニック）

山川翔太（麻酔）

我喜屋亮太（麻酔）

専門医：福地万寿美（麻酔）

兼島充基（麻酔）

知念加奈子（麻酔）

認定病院番号：94

特徴：先進的な幅広い症例が経験でき、指導体制も充実している。集中治療、ペインクリニックを含む集学的な周術期管理を学べる。

日本医科大学付属病院

研修実施責任者：石川真士

専門研修指導医：石川真士（麻酔一般，心臓麻酔，無痛分娩）

間瀬大司（麻酔，集中治療，産科麻酔）

源田雄紀（麻酔，集中治療）

岩崎雅江（麻酔，ペインクリニック，緩和ケア）

稲垣喜三（麻酔，ペインクリニック，漢方）

並里 大（麻酔）

山本真記子（麻酔，心臓麻酔，基礎研究）

水野友喜（麻酔，心臓麻酔）

富張雅宏（心臓麻酔）

右田妹亜（心臓麻酔，無痛分娩）

金子美穂（麻酔，無痛分娩）

井野佑佳（麻酔，緩和ケア，基礎研究） 他

臨床研修病院施設番号：030183

特徴：麻酔一般のほか，外科系集中治療室へのローテートを必須としており，術中の麻酔管理だけではなく，術後管理を含めた周術期管理を学んで頂ける。その他にも，緩和ケア，ペインクリニック外来のローテーションも可能である。緊急手術症例，重症症例を指導医のもと数多く経験することが可能である。女性医師のキャリア支援にも力を入れている。麻酔科管理症例数（2025年度） 8,044症例。

弘前大学医学部附属病院

研修実施責任者：斎藤淳一

専門研修指導医：斎藤淳一（麻酔，集中治療，心臓，区域麻酔）

櫛方哲也（麻酔，集中治療）

木村 太（麻酔，ペインクリニック，集中治療，緩和医療）

北山眞任（麻酔，区域麻酔）

橋場英二（麻酔，集中治療）

外崎 充（麻酔）

中井希紫子（麻酔，区域麻酔）

工藤隆司（麻酔，ペインクリニック，緩和医療）

工藤倫之（麻酔）

清川聖代（麻酔）
野口智子（麻酔，集中治療，心臓，区域麻酔）
紺野真緒（麻酔，ペインクリニック，緩和医療）
川口 純（麻酔，集中治療）
菅沼拓也（麻酔，集中治療）
竹川大貴（麻酔，集中治療）
木下裕貴（麻酔）
大山 翼（麻酔，集中治療）
堀 実怜（麻酔，集中治療）
石山絵里奈（麻酔）
加藤広大（麻酔）
市川詩乃（麻酔）
齋藤くるみ（麻酔）

認定病院番号：46

特徴：ペインクリニック・緩和医療，集中治療，救急医療のローテーション可能

兵庫県立こども病院

研修実施責任者：香川哲郎

専門研修指導医：香川哲郎（小児麻酔）

高辻小枝子（小児麻酔）
大西広泰（小児麻酔）
宮本義久（小児麻酔）
上嶋江利（小児麻酔）
末田 彩（小児麻酔）
藤原孝志（小児麻酔）
田中康智（小児麻酔）
上野真穂（小児麻酔）

認定病院番号：93

特徴：小児・周産期医療専門病院として，一般的な小児外科症例や各科の小児症例のほか，新生児手術，小児開心術，日帰り手術，血管造影等の検査麻酔，病棟での処置麻酔，緊急帝王切開等，一般病院では扱うことが少ない症例経験が可能。
小児がん拠点病院，地域医療支援病院，小児救急救命センター。

国立循環器病センター

研修実施責任者：前田琢磨

専門研修指導医：前田琢磨

金澤裕子

南 公人

下川 亮

月永晶人

森永將裕

三浦真之介

認定病院番号：168

特徴：センター手術室は12室であり，そのうち4室はハイブリッド手術室である．ロボット手術専用室やCOVID対応陰圧手術室も設置しており，特に冬は緊急大動脈解離の症例が多くなる．劇症型心筋炎や心筋症増悪に対する左室補助装置装着手術も多い．心臓移植はおよそ月1回程度ある．麻酔科医はスタッフ8名，レジデント18名で，休日を含めた毎日，麻酔科医2名が当直，オンコール1名ですべての緊急症例に対応している．

大阪母子医療センター

研修実施責任者：竹下 淳

専門研修指導医：竹下 淳（小児・産科麻酔）

川村 篤（小児集中治療）

濱場啓史（小児・産科麻酔）

増茂 薫（小児・産科麻酔）

阪上 愛（小児・産科麻酔）

西垣 厚（小児集中治療）

専門医：征矢尚美（小児・産科麻酔）

栞畑綾香（小児・産科麻酔）

佐伯淳人（小児・産科麻酔）

井川大輝（小児・産科麻酔）

認定病院番号：260

特徴：小児麻酔と産科麻酔に関連するあらゆる疾患を対象とし，専門性の高い麻酔管理を安全に行っている．代表的な疾患として，胆道閉鎖症，胃食道逆流症，横隔膜ヘルニア，消化管閉鎖症，固形腫瘍（小児外科），先天性水頭症，もやもや病，狭頭症，脳腫瘍，脊髄髄膜瘤（脳神経外科），複雑心奇形（心臓血管外科・小児循環器科），口唇口蓋裂（口腔外科），小耳症，母斑，多合指（趾）症（形成外科），分娩麻痺，骨欠損，多合指

(趾)症，膀胱尿管逆流症，尿道下裂，総排泄腔遺残症（泌尿器科），斜視，未熟児網膜症（眼科），中耳炎，気道狭窄，扁桃炎（耳鼻科），白血病，悪性腫瘍（血液・腫瘍科），帝王切開，無痛分娩，双胎間輸血症候群（産科）などがある．さらに，小児では消化管内視鏡検査や血管透視，MRIなどの検査の麻酔・鎮静も麻酔科医が行っている．

社会医療法人社団十全会 心臓病センター榊原病院

研修実施責任者：大西佳彦

専門研修指導医：大西佳彦（心臓血管麻酔）

石井智子（心臓血管麻酔）

認定病院番号：1142

特徴：心臓外科領域の麻酔が主である．TAVI，MICSも症例数が多い．

愛媛県立今治病院（以下，県立今治病院）

研修実施責任者：飛田 文

専門研修指導医：飛田 文（麻酔，集中治療）

認定病院番号：282

特徴：帝王切開の症例が多い．

愛媛県立新居浜病院（以下，県立新居浜病院）

研修実施責任者：惣谷昌夫

専門研修指導医：惣谷昌夫（麻酔，集中治療）

認定病院番号：1502

特徴：救命センターがあり，交通外傷などの緊急手術症例が経験できる．

十全総合病院

研修実施責任者：湖城 均

専門研修指導医：湖城 均（麻酔，ペインクリニック）

認定病院番号：1659 研修委員会認定病院取得：2014

特徴：地域医療支援病院．

市立大洲病院

研修実施責任者：新田賢治

専門研修指導医：新田賢治（麻醉）

認定病院番号：1253 研修委員会認定病院取得：2012年

特徴：地域医療支援病院

市立八幡浜総合病院（以下、市立八幡浜病院）

研修実施責任者：越智元郎

専門研修指導医：越智元郎（麻醉，救急医療）

認定病院番号：1639

特徴：地域における救急医療の中心施設

済生会松山病院

研修実施責任者：鈴木康之

専門研修指導医：鈴木康之（麻醉）

認定病院番号：1899

特徴：一般的な手術麻醉症例を多く経験できる。

久留米大学病院

研修実施責任者：平木照之

専門研修指導医：平木照之（麻醉，緩和医療）

原 将人（麻醉，心臓麻醉）

中川景子（麻醉，緩和医療）

平田麻衣子（麻醉，心臓麻醉）

亀山直光（麻醉）

横溝美智子（麻醉）

太田 聡（麻醉）

服部美咲（麻醉）

藤田太輔（麻醉，心臓麻醉）

木本義敬（麻醉）

西原千晶（麻醉）

川上真代（麻醉）

麻醉科認定病院番号：41

特徴：福岡県南部の中核病院。新生児，開心術，高難度手術など幅広く手術麻酔を行っている。手術症例数が豊富であり専門医として必要な手技を数多く経験することができる。

大牟田市立病院

研修実施責任者：上瀧正三郎

専門研修指導医：上瀧正三郎（麻酔）

伊藤貴彦（麻酔，救急医療）

麻酔科認定病院番号：386

特徴：地域医療支援病院，がん診療拠点病院，災害拠点病院。小児麻酔や産科麻酔，脳神経外科や胸部外科の症例が豊富で緊急手術も多い。災害拠点病院でもあり，救急医療にも力を入れている。

筑後市立病院

研修実施責任者：江島美沙

専門研修指導医：江島美紗（麻酔）

合原由衣（麻酔）

麻酔科認定病院番号：900

特徴：災害拠点病院。鏡視下手術の麻酔や手術室外での麻酔を経験できる。

久留米大学医療センター

研修実施責任者：西尾由美子

専門研修指導医：西尾由美子（麻酔）

麻酔科認定病院番号：1451

特徴：クリニカルパスを含めた，手術麻酔のマネジメントを経験できる。また整形外科疾患におけるエコーガイド下末梢神経ブロックを集中的に経験することができる。

5. 専攻医の採用と問い合わせ先

① 採用方法

専攻医に応募する者は，日本専門医機構に定められた方法により，期限までに（2025年10月ごろを予定）志望の研修プログラムに応募する。

② 問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは、愛媛大学麻酔科専門研修プログラムwebsite、電話、e-mail、郵送のいずれの方法でも可能である。

愛媛大学医学部附属病院 麻酔科蘇生科 西原 佑 （科長，教授）

愛媛県東温市志津川454

TEL 089-960-5383

E-mail： nishihara.tasuku.cb@ehime-u.ac.jp

Website: <http://www.m.ehime-u.ac.jp/school/anes/>

6. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

① 専門研修で得られる成果（アウトカム）

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は、4年間の専門研修を修了することで、安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し、国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる。具体的には、専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる。

- 1) 十分な麻酔科領域、および麻酔科関連領域の専門知識と技能
- 2) 刻々と変わる臨床現場における、適切な臨床的判断能力，問題解決能力
- 3) 医の倫理に配慮し，診療を行う上での適切な態度，習慣
- 4) 常に進歩する医療・医学に則して，生涯を通じて研鑽を継続する向上心

麻酔科専門研修後には、大学院への進学やサブスペシャリティ領域の専門研修を行う環境も整っており、専門医取得後もシームレスに次の段階に進み、個々のスキルアップを図ることが出来る。

② 麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために、研修期間中に別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた専門知識，専門技能，学問的姿勢，医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成する。

③ 麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識，技能，態度を備えるために、別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた経験すべき疾患・病態，経験すべき診療・検査，経験すべき麻酔症例，学術活動の経験目標を達成する。

このうちの経験症例に関して、原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが、地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り、研修プログラム管理

委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち、専門研修指導医が指導した症例に限っては、専門研修の経験症例数として数えることができる。

7. 専門研修方法

別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた 1) 臨床現場での学習, 2) 臨床現場を離れた学習, 3) 自己学習により、専門医としてふさわしい水準の知識、技能、態度を修得する。

上記 1)～3)の学習機会として、毎朝の当日麻酔症例の検討会でのプレゼンテーション、英文抄読会（週1回）、心臓血管外科の症例検討会（週1回）、麻酔、集中治療患者の症例振り返り検討会（いわゆるM&Mカンファレンス、週1回）、基礎研究や臨床研究の計画立案や進捗状況を検討するリサーチミーティング（月1回）、病院全体で開催される医療倫理、医療安全管理、院内感染対策の講演会（年間あわせて6回）などがある。また、学術集会において、症例報告などの発表の機会を提供し、指導する体制が整っている。その準備にあたっては、各自が文献、成書にアクセスできる環境は整っている。

8. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って、下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する。

専門研修1年目

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し、ASA1～2度の患者の通常の定時手術に対して、指導医の指導のもと、安全に周術期管理を行うことができる。

専門研修2年目

1年目で修得した技能、知識をさらに発展させ、全身状態の悪いASA3度の患者の周術期管理やASA1～3度の緊急手術の周術期管理を、指導医の指導のもと、安全に行うことができる。

専門研修3年目

心臓外科手術、胸部外科手術、脳神経外科手術、帝王切開手術、小児手術などを経験し、さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと、安全に行うことができる。また、ペインクリニック、集中治療、救急医療など関連領域の臨床に携わり、知識・技能を修得する。

専門研修4年目

3年目の経験をさらに発展させ、さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる。基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが、難易度の高い症例、緊急時などは適切に上級医をコールして、患者の安全を守ることができる。

9. 専門研修の評価（自己評価と他者評価）

① 形成的評価

- 研修実績記録：専攻医は毎研修年次末に、**専攻医研修実績記録フォーマット**を用いて自らの研修実績を記録する。研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される。
- 専門研修指導医による評価とフィードバック：研修実績記録に基づき、専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し、**研修実績および到達度評価表、指導記録フォーマット**によるフィードバックを行う。研修プログラム管理委員会は、各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し、専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる。

② 総括的评价

研修プログラム管理委員会において、専門研修4年次の最終月に、**専攻医研修実績フォーマット、研修実績および到達度評価表、指導記録フォーマット**をもとに、研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて、各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識、②専門技能、③医師として備えるべき学問的姿勢、倫理性、社会性、適性等を修得したかを総合的に評価し、専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する。

10. 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標、経験すべき症例数を達成し、知識、技能、態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうか修了要件である。各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において、研修期間中に行われた形成的評価、総括的评价を元に修了判定が行われる。

11. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は、毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い、研修プログラム管理委員会に提出する。評価を行ったことで、専攻医が不利益を被らないように、研修プログラム統括責任者は、専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある。

研修プログラム統括管理者は、この評価に基づいて、すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために、自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する。

12. 専門研修の休止・中断，研修プログラムの移動

① 専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき，研修プログラム管理委員会が判断を行う．
- 出産あるいは疾病などに伴う 6 ヶ月以内の休止は 1 回までは研修期間に含まれる．
- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は，連続して 2 年迄休止を認めることとする．休止期間は研修期間に含まれない．研修プログラムの休止回数に制限はなく，休止期間が連続して 2 年を越えていなければ，それまでの研修期間はすべて認められ，通算して 4 年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす．
- 2 年を越えて研修プログラムを休止した場合は，それまでの研修期間は認められない．ただし，地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については，卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし 2 年以上の休止を認める．

② 専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は，研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする．
- 専門研修の中断については，専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合，研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる．

③ 研修プログラムの移動

- 専攻医は，やむを得ない場合，研修期間中に研修プログラムを移動することができる．その際は移動元，移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて，日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある．麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める．

13. 地域医療への対応

本研修プログラムの連携施設には，地域医療の中核病院としての愛媛県立新居浜病院，愛媛県立今治病院，市立宇和島病院，十全総合病院，市立大洲病院，市立八幡浜総合病院，住友別子病院など幅広い連携施設が入っている．医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し，適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため，専攻医は，大病院だけでなく，地域での中小規模の研修連携施設においても一定の期間は麻酔科研修を行い，当該地域における麻酔診療のニーズを理解する．

14.専攻医の就業環境の整備機能(労務管理)

研修期間中に常勤として在籍する研修施設の就業規則に基づき就業することとなる。専攻医の就業環境に関して、各研修施設は労働基準法や医療法を順守することを原則とする。プログラム統括責任者および各施設の研修責任者は専攻医の適切な労働環境(設備、労働時間、当直回数、勤務条件、給与なども含む)の整備に努めるとともに、心身の健康維持に配慮する。

年次評価を行う際、専攻医および専門研修指導医は研修施設に対する評価(Evaluation)も行い、その内容を専門研修プログラム管理委員会に報告する。就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、研修責任者に文書で通達・指導する。現時点において、愛媛県内の施設に関しては、おおむね全ての施設において A 水準を満たしている。